

主要産地における平成27年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第2報（10月2日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成27年10月5日）

全 国 道 府 県	収穫量（主食用）					作況		品質概況等		参考		
	予想収穫量 (27年9月15日 現在)①	前年産収穫量 (26年9月15日 現在)②	前年産 収穫量 との比較 (①-②)	生産数量目標 との比較 (①-③)	自主的取組参 考値との比較 (①-④)	作況指数 (27年9月15日 現在)	前年産 (26年9月15日 現在) との比較	27年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (27年8月末)	26年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (26年8月末)	生産数量目標		平成27年産 自主的取組 参考値 ④
										平成27年産 ③	前年産 との比較	
	t	t	t	t	t		▲	%	%	t	t	t
全国	7,467,000	7,899,000	▲ 432,000	▲ 43,000	77,000	100	▲ 1	72.9	76.6	7,510,000	▲ 140,000	7,390,000
北海道	556,600	598,200	▲ 41,600	9,270	18,020	103	▲ 5			547,330	▲ 6,810	538,580
青森	229,400	256,600	▲ 27,200	▲ 13,060	▲ 9,180	105	1			242,460	▲ 4,540	238,580
岩手	266,500	286,200	▲ 19,700	▲ 4,710	▲ 380	104	▲ 1			271,210	▲ 4,330	266,880
宮城	347,200	374,800	▲ 27,600	▲ 1,420	4,150	103	▲ 1	100.0	56.7	348,620	▲ 14,010	343,050
秋田	416,500	453,000	▲ 36,500	▲ 1,040	5,640	102	▲ 2			417,540	▲ 15,500	410,860
山形	354,300	378,800	▲ 24,500	9,800	15,310	103	▲ 1	100.0		344,500	▲ 14,070	338,990
福島	343,200	351,200	▲ 8,000	3,650	9,070	103	▲ 1	79.2	90.9	339,550	▲ 8,870	334,130
茨城	351,600	397,700	▲ 46,100	14,230	19,620	98	▲ 7	87.1	93.5	337,370	▲ 4,180	331,980
栃木	289,400	314,800	▲ 25,400	▲ 9,290	▲ 4,520	99	▲ 1	100.0		298,690	▲ 10,640	293,920
埼玉	156,600	169,200	▲ 12,600	5,330	7,750	101	▲ 1	54.4	72.0	151,270	▲ 1,410	148,850
千葉	297,500	325,300	▲ 27,800	51,010	54,950	101	▲ 3	88.7	95.5	246,490	▲ 2,790	242,550
新潟	550,900	578,100	▲ 27,200	29,610	37,940	99	▲ 3	88.0	91.8	521,290	▲ 14,350	512,960
富山	191,900	193,900	▲ 2,000	6,250	9,220	103	2	84.2	96.9	185,650	▲ 6,690	182,680
石川	123,200	123,400	▲ 200	▲ 430	1,550	101	3	85.6	89.6	123,630	▲ 2,770	121,650
福井	125,500	126,000	▲ 500	40	2,040	101	3	79.3	92.5	125,460	▲ 2,670	123,460
長野	197,400	202,400	▲ 5,000	3,400	6,500	99	0	100.0		194,000	▲ 2,640	190,900
滋賀	158,800	157,400	1,400	▲ 1,650	920	100	3	83.1	77.0	160,450	▲ 2,930	157,880
兵庫	177,400	177,400	0	▲ 3,040	▲ 160	99	3	73.0	50.3	180,440	▲ 1,490	177,560
岡山	152,100	156,700	▲ 4,600	▲ 6,450	▲ 3,920	98	2	53.9		158,550	▲ 1,640	156,020
広島	122,400	123,300	▲ 900	▲ 7,570	▲ 5,490	97	2	53.7	30.1	129,970	▲ 160	127,890
山口	100,200	103,000	▲ 2,800	▲ 8,560	▲ 6,820	97	2	81.4	88.0	108,760	▲ 2,060	107,020
愛媛	72,000	72,600	▲ 600	▲ 1,920	▲ 740	99	1	35.9	46.6	73,920	▲ 570	72,740
高知	<u>52,700</u>	<u>56,400</u>	▲ 3,700	2,630	3,430	96	▲ 1	<u>18.2</u>	<u>22.2</u>	50,070	20	49,270
福岡	173,000	176,800	▲ 3,800	▲ 9,470	▲ 6,550	97	1	21.2	34.8	182,470	▲ 1,910	179,550
熊本	172,200	181,200	▲ 9,000	▲ 17,110	▲ 14,090	97	0	<u>52.9</u>	<u>46.3</u>	189,310	▲ 610	186,290
宮崎	<u>73,700</u>	<u>85,800</u>	▲ 12,100	▲ 19,900	▲ 18,400	<u>92</u>	▲ 7	<u>65.9</u>	<u>70.3</u>	93,600	▲ 870	92,100
鹿児島	<u>95,100</u>	<u>103,700</u>	▲ 8,600	▲ 15,970	▲ 14,190	<u>92</u>	▲ 5	<u>45.2</u>	<u>38.0</u>	111,070	▲ 470	109,290

注：更新箇所について、前回より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

	品質概況等	備考
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	平成27年度米の作柄・品質等の向上に関する取組等（栽培技術指導方針） （農林水産省公表資料の抜粋）
北海道	<p>・9月15日現在の作柄は、6月下旬から7月上旬にかけて低温で経過したことにより、1種当たりもみ数が「やや少ない」、全もみ数が「やや少ない」となったものの、8月上旬から中旬にかけておおむね高温で経過したことにより、開花・受精の状況が良好であると推察され、登熟が「やや良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は556kg（前年に比べ21kg減少）が見込まれる。 （北海道農政事務所 10月2日付）</p> <p>（全道）生育はやや遅いが、順調に登熟している。各地で収穫が始まった。（遅4日） （北海道農政課 9月15日現在） （空知）9月上旬の低温や日照不足により登熟は緩やかとなった。（遅4日）（空知総合振興局 9月15日現在） （石狩）登熟がやや遅れている（遅2日）。（石狩振興局 9月15日現在） （後志）平年よりも生育が1日遅れており、収穫作業も1日遅く始まった。登熟は並。 （後志総合振興局 9月15日現在） （胆振）登熟は概ね順調。収穫が始まった地域がある。9月下旬に収穫の最盛期となる見込み。（遅2） （胆振総合振興局 9月15日現在） （日高）生育は平年並に推移している。収穫も平年並に始まった。（日高振興局 9月15日現在） （渡島）生育は平年並みに推移（成熟 早2日）。（渡島総合振興局 9月15日現在） （檜山）登熟は平年並（遅1日）。（檜山振興局 9月15日現在） （上川）生育は平年よりも遅れて推移しているが登熟は順調（遅7日）。（上川総合振興局 9月15日現在） （留萌）生育は平年よりやや遅いが、登熟は順調に進んでいる（遅3日）。（留萌振興局 9月15日現在） （オホーツク）生育は遅れている（遅9日）。（オホーツク総合振興局 9月15日現在）</p>	<p>○収量・品質の安定に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗管理の徹底 ・防風対策等の栽培環境整備 ・適正施肥
青森	<p>・9月15日現在の作柄は、全もみ数が「平年並み」となったものの、出穂期の8月上旬から中旬の気温・日照時間が平年を上回って経過し、登熟が「やや良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は615kgで、前年産に比べて5kgの増加が見込まれる。 （東北農政局 10月2日付）</p> <p>・9月30日現在の福刈進捗は、県全体で42%となり、平年に比べて5ポイント高かった。福刈始めは9月22日で、平年に比べ2日早かった。 （青森県 10月1日付）</p> <p>・9月10日現在、黒石「つがるロマン」の登熟歩合は81.4%で、平年並み。「青天の霹靂」の登熟歩合は90.4%で、「つがるロマン」より9.0ポイント上回った。十和田「まっしぐら」の登熟歩合は75.2%で、平年並み。 （青森県産業技術センター農林総合研究所 9月15日付）</p>	<p>○良食味・高品質米の安定生産（気象に左右されない米づくり）に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗管理の徹底 ・適地・適品種の作付誘導 ・健全育成と適期移植 ・畦畔の整備、補給と適正な水管理 ・土作りの推進と適正な施肥
岩手	<p>・9月15日現在の作柄は、全もみ数が「平年並み」となったものの、出穂期となる8月上旬の気温・日照時間が平年を上回って経過し、登熟が「やや良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は554kgで、前年産に比べて8kgの減少が見込まれる。 （東北農政局 10月2日付）</p> <p>・9月30日現在、県全体で37%の水田で刈取りが終了しており、平年と比較して3ポイント早い刈取割合である。また、刈取盛期は10月上旬と見込まれる。地域別には、北上川上流が39%、北上川下流が37%、東部が45%、北部が27%となっており、県内全域で刈取りが進んでいる。 （岩手県中央農業改良普及センター県域普及グループ 10月1日付）</p>	<p>○良質・良食味米の安定生産及び低温障害回避のため、適期移植の指導が行われている。</p> <p>○有機物による土作りや追肥の適正実施の指導が行われている。</p>
宮城	<p>・9月15日現在の作柄は、田植期以降8月上旬まで天候に恵まれたことから全もみ数が「やや多い」となったものの、8月中旬から9月上旬の日照時間が平年を下回って経過し、登熟が「やや不良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は545kgで、前年産に比べて14kgの減少が見込まれる。 （東北農政局 10月2日付）</p> <p>・10月1日現在における刈取面積は43,540haであり、県全体の進行率は67.3%となっている。県全体の刈取盛期は9月29日であり、平年に比べて1日早い。 （宮城県 10月2日付）</p> <p><台風18号等による大雨に係る農作物の被害状況（9月23日午前8時現在）> 仙台市等（27市町）の水稲を含む農作物の被害面積は9,018ha、被害額は1,321,796千円となっている。 （宮城県 9月23日付）</p>	<p>○良質・良食味米の安定生産（気象変動に強い米づくり）に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作型の改善（出穂期を遅らせる作型） ・土づくりの推進と適正な施肥 ・適正な水管理と病害虫防除等
秋田	<p>・9月15日現在の作柄は、全もみ数が「平年並み」となったものの、出穂期となる8月上旬の気温・日照時間が平年を上回って経過し、登熟が「やや良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は585kgで、前年産に比べて11kgの減少が見込まれる。 （東北農政局 10月2日付）</p> <p>（鹿角）9月30日時点での刈取り作業の進捗状況は13.1%（平年17.8%）となっている。断続的な降雨の影響で平年よりも遅くなっている。（10月2日付） （山本）9月30日現在、刈取作業の進捗率は43.0%（平年44.0%）。収穫の盛期は10月1日から始まる見込み。（10月2日付） （秋田）9月30日現在の刈取り作業の進捗は66.7%（平年56.2%）で、盛期は9月29日だった。（10月2日付） （仙北）9月30日時点での水稲刈取り作業進捗状況は55.0%（平年60.1%）となっており、盛期を迎えている。出穂は早かったものの、その後の登熟は緩慢で、刈取り作業は平年並の進捗。（10月2日付） （平賀）刈取作業の盛期は、平年並の10月1日となった。（10月2日付）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予報。（農林水産省 9月18日公表）</p>	<p>○良質・良食味米の生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりの推進と栽培密度の適正化 ・適正な水管理と雑草防除の徹底 ・適正な施肥管理と適期刈取り等
山形	<p>・9月15日現在の作柄は、全もみ数が「やや多い」となり、出穂期の気温・日照時間が平年を上回って経過したものの、その後気温・日照時間が平年を下回って経過したことから登熟が「平年並み」と見込まれ、10a当たり予想収量は614kgで、前年産に比べて9kgの減少が見込まれる。 （東北農政局 10月2日付）</p> <p>・9月7日現在の登熟歩合は、はえぬきは73%（平年差-4.2%）でほぼ平年並み。つや姫は58%で平年よりやや遅れている（平年差-10.7%）。8月3日出穂のはえぬきで、9月14日には刈取始期に達する見込み。（オールやまがた米づくり日本一運動本部 9月10日付）</p> <p>（東南村山）つや姫は刈取適期に入っている。（9月25日付） （最上）つや姫は出穂期が早まり、登熟期間の平均気温がほぼ平年並に経過していることから、刈取適期はやや早まる見込み。（9月18日付） （西置賜）つや姫の9月7日現在の登熟歩合は、平坦部の川西町黒川で41.9%（平年比-19.3%）、飯豊町で42.4%（平年比-9.8%）。穂数は平年よりやや多く、1穂粒数は平年並みで㎡当たり粒数はやや多い状況。（9月15日付） 例年と比べて、ほ場間の登熟進捗にバラつきが見られることや、一部に青穂歩合の低下が緩慢なものが見られる。（9月15日付） （北村山）9月7日現在のつや姫は、穂数が多く、㎡当たり粒数が平年より多い傾向。登熟はやや緩慢に進んでいる。（村山総合支庁北村山農業技術普及課 9月11日付） （庄内）9月7日調査のつや姫の登熟歩合は、鶴岡市上清水で67.2%、三川町押切で67.9%で平年並。（庄内総合支庁 9月10日付）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予報。（農林水産省 9月18日公表）</p>	<p>○気象変動に対応した品質向上技術（水管理、適期移植）の指導</p> <p>○土壌診断に基づきリン酸、カリ等の適量施肥等の指導が行われている。</p>

	品質概況等	備考
福島	<p>・9月15日現在の作柄は、全もみ数が「やや多い」となったものの、8月中旬から9月上旬の気温・日照時間が平年を下回って経過し、登熟が「やや不良」と見込まれることから、10a 当たり予想収量は558kgで、前年産に比べて2kgの減少が見込まれる。 (東北農政局 10月2日付)</p> <p>・県内各地の出穂期は、各品種とも平年に比べて2日から8日早まったものの、8月中旬以降の日照不足の影響で登熟が緩慢となり、成熟期は平年並になる見込み。 (福島県 9月4日付)</p>	<p>○土壌診断に基づくカリ施用、堆肥の施用による土づくり等の指導が行われている。</p>
茨城	<p>・9月15日現在の作柄は、田植期以降、高温・多照で推移し穂数及び1穂当たりもみ数がやや多かったことから全もみ数は「やや多い」となった。登熟は、8月上旬の高温と中旬以降の日照不足や降雨の影響により抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。 台風第18号の影響から、西部及び南部地帯で冠水、浸水、倒伏等の被害がみられる。この結果、10a 当たり予想収量は514kgで、前年産に比べて34kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a 当たり予想収量は、北部が533kg (前年産比14kg減少)、鹿行が528kg (同21kg減少)、南部が529kg (同27kg減少)、西部が473kg (同67kg減少)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅 (1.80mm) で選別された茨城県の作況指数は98が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、北部で103、鹿行及び南部で101、西部で90が見込まれる。 主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量 (主食用) は35万1,600tで、前年産に比べて4万4,600tの減少が見込まれる。 (関東農政局 10月2日付)</p> <p><台風18号等による水稲の被害状況 (9月17日17時現在)> 常総市、境町等 (21市町) で、冠水、浸水、倒伏の被害面積は3,652.1ha、推計被害額は2,696,913千円となっている。 (茨城県 9月18日付)</p>	<p>○良質米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適期移植 ・適期・適切な中干しによる茎数管理 ・適期収穫と適正乾燥・調製
栃木	<p>・9月15日現在の作柄は、穂数がやや多かったことから、全もみ数は「やや多い」となった。登熟は、出穂期以降、高温・多照で推移していたものの、全もみ数がやや多いことや、8月中旬以降の低温と日照不足の影響により抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。 台風第18号の影響から、栃木県内全域で冠水、浸水、倒伏等の被害がみられる。この結果、栃木県の10a 当たり予想収量は535kgで、前年産に比べて3kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a 当たり予想収量は、北部が559kg (前年産比3kg減少)、中部が532kg (同5kg減少)、南部が494kg (同4kg減少)が見込まれる。 農家等が使用しているふるい目幅 (1.80mm) で選別された栃木県の作況指数は99が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、北部で100、中部及び南部ともに98が見込まれる。 (関東農政局 10月2日付)</p> <p><台風18号による水稲の被害状況> 栃木市等 (17市町) の被害面積は3,166.6ha、被害金額は907,766千円。 (栃木県 9月18日付)</p>	<p>○品質や食味の向上に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水管理の徹底 ・生育診断に基づく適正な肥培管理 ・適期収穫
埼玉	<p>・9月15日現在の作柄は、田植期以降、高温・多照で推移したことから穂数がやや多くなり、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから、全もみ数は「やや多い」となった。登熟は、出穂期以降の8月中旬からの低温・日照不足の影響により抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。 この結果、埼玉県内の10a 当たり予想収量は494kgで、前年産に比べて7kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a 当たり予想収量は、東部が505kg (前年産比9kg減少)、西部が473kg (同4kg減少)が見込まれる。 農家等が使用しているふるい目幅 (1.80mm) で選別された埼玉県の作況指数は101が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、東部及び西部ともに101が見込まれる。 (関東農政局 10月2日付)</p> <p>・県内全般の早期栽培は、あきたこまち等極早いもので平年より6日程度早く刈り取りが始まり、収量は平年並～やや多収。品質は高温の影響により全般に小粒で白未熟も多かつた。以降のものは、8月下旬の曇雨天の影響で登熟は遅延傾向で収穫も遅れている。穂数は平年並～多く確保されている。 早稲栽培の出穂は、5月上旬で3～5日程度早く、5月中旬以降で平年並。登熟は8月下旬の曇雨天の影響により遅延傾向。穂数は多い傾向である。 普通栽培の出穂は概ね平年並。登熟は出穂以降、曇雨天が継続していることから遅延している。穂数は概ね平年並。 (埼玉県農業技術研究センター 9月4日現在)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 9月18日公表)</p>	<p>○品質・食味向上に向け、栽培管理技術の徹底及び栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理の指導が行われている。</p> <p>○夏場の高温対策として、水管理の徹底、栄養診断に基づいた施肥の実施及び適期収穫の指導が行われている。</p>
千葉	<p>・9月15日現在の作柄は、5月上旬以降、高温・多照で推移したことから、全もみ数は「やや多い」となった。登熟は、7月上旬の低温と日照不足に加え、出穂後の高温や8月中旬以降の低温・日照不足の影響により抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。 この結果、千葉県の10a 当たり予想収量は539kgで、前年産に比べて19kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a 当たり予想収量は、京葉が527kg (前年産比15kg減少)、九十九里が554kg (同22kg減少)、南房総が520kg (同12kg減少)が見込まれる。 農家等が使用しているふるい目幅 (1.80mm) で選別された千葉県の作況指数は101が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、京葉、九十九里及び南房総ともに101が見込まれる。 (関東農政局 10月2日付)</p> <p><台風18号等による水稲の被害状況 (9月16日午前9時現在)> 市原市、銚子市、野田市で被害面積が93.3ha、被害金額は63,280円となっている。 (千葉県 9月16日付)</p> <p>・「ふさおとめ」は、充実度、整粒歩合及び光沢は概ね良い。肌ずれは見られなかった。粒ぞろい及び粒形は良好である。白未熟粒の混入は全体的に少ない。活青米は適度に混入している。胴割粒、被害粒の混入は比較的少ない。着色粒は全体的に散見される。 (精米工 9月3日付)</p>	<p>○土作りの推進と適正な施肥・水管理の徹底</p> <p>○適期収穫と適正な乾燥・調製の徹底等の指導が重点的に行われている。</p>
新潟	<p>・9月15日現在の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれ、全もみ数が「平年並み」となったものの、8月中旬以降は気温・日照時間も平年を下回って経過したため、登熟が「やや不良」と見込まれることから、10a 当たり予想収量は538kgで、前年産に比べて9kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 10月2日付)</p> <p>・9月15日現在のコシヒカリの収穫進捗は、中越地域では15%程度、新潟・上越地域では10%程度、その他の地域では3%以下、県内全域では10%程度となっている。コシヒカリの倒伏は、近年に比べて少ない状況。 (新潟県 9月18日付)</p> <p>(新 津) 9月9～10日の台風第18号等に伴う大雨により、阿賀野川堤外地の農作物の浸水・冠水があり、穂差等による品質低下を防止するため、刈り遅れのないよう指導。(9月11日付)</p> <p>(魚 沼) 8月中旬以降の低温・日照不足により、登熟は緩やかに進んでいる。9月13日現在の収穫適期のめやすは、平場が9月16～17日 (出穂期8月5日)、9月19～20日 (出穂期8月7日)、山場が9月24～25日 (出穂期9月9日)、9月28～30日 (出穂期8月12日)。(9月15日付)</p> <p>(南魚沼) 登熟期間は気温が低く、日照が平年より少なく経過していることから、籾の黄化は遅め。9月6日現在、南魚沼市のコシヒカリの収穫適期のめやすは、9月15日 (出穂期8月4日)、9月8日 (出穂期8月8日)、9月26日 (出穂期8月12日)。(9月10日付)</p>	<p>○良質・良食味米生産推進のため、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりによる気象変動に強い稲づくり ・適正生育量の確保と過剰生育の防止 ・適正な種肥、水管理 ・適期刈取りと適正な乾燥・調製

	品質概況等	備考
高 山	<p>・9月15日現在の作柄は、田植期から出穂期まで、総じて気温が高く、平年に比べ日照が多かったことから、全もみ数は「やや多い」となり、8月中旬以降は気温、日照時間とも平年を下回って経過したため、登熟は「やや不良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は561kgで、前年産に比べて20kgの増加が見込まれる。 (北陸農政局 10月2日付)</p>	<p>○土壌診断に基づく土作り ○高温登熟を回避するため、以下の指導が行われている。 ・「コシヒカリ」の適期移植の実施 ・適期・適切な中干しの徹底 ・肥料の適期・適量施肥</p>
石 川	<p>・9月15日現在の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみは「平年並み」となり、8月中旬以降は気温、日照時間とも平年を下回って経過したため、登熟は「やや不良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は522kgで、前年産に比べて14kgの増加が見込まれる。 (北陸農政局 10月2日付)</p>	<p>○良質・良食味生産に向け、以下の指導が行われている。 ・緩効性肥料の普及 ・過繁茂を回避するため基肥量の見直し ・適正差数の確保</p>
福 井	<p>・9月15日現在の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は「やや多い」となったものの、8月中旬以降は気温、日照時間とも平年を下回って経過したため、登熟は「やや不良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は525kgと見込まれる。 (北陸農政局 10月2日付)</p> <p>・農業試験場におけるコシヒカリ(5月20日播)の籾水分は、平年より高めに推移していたが、9月14日の調査では大きく水分が低下した。胴割粒が徐々に発生しつつある。 (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 9月15日付)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 9月18日公表)</p>	<p>○土づくりと適切な水管理の徹底 ○高温登熟回避による品質向上を図るため、適期移植等の指導が行われている。</p>
長 野	<p>・9月15日現在の作柄は、田植期以降、高温・多照で経過したことから穂数はやや多くなったものの、1穂当たりもみ数が幼穂形成期の日照不足等によりやや少なくなったことから、全もみ数は「平年並み」となった。登熟は、8月中旬以降の日照不足や降雨の影響によりやや抑制されたものの「平年並み」が見込まれる。 この結果、長野県の10a当たり予想収量は613kgで、前年産に比べて16kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、東信が638kg(前年産比32kg増加)、南信が625kg(同26kg増加)、中信が621kg(同17kg増加)、北信が557kg(同18kg減少)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふんい目幅(1.80mm)で選別された長野県の作況指数は99が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、東信で100、南信で99、中信及び北信で98が見込まれる。 (関東農政局 10月2日付)</p> <p>・9月2日現在、平坦地の早生種(あきたこまち等)は8月末から収穫が始まっている。「コシヒカリ」は9月上旬後半から下旬が収穫適期です。低温の影響で生育が当初より若干遅れたが、概ね平年、昨年と比較して4日程度進んでいると予想。 (松本農業改良普及センター 平成27年度 作物技術普及情報15号)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生量は、平年並～やや多いと予報。(長野県病害虫防除所 9月15日付)</p>	<p>○食味向上に向けた適量施肥 ○高温登熟障害(胴割米、白未熟米)防止のため適切な水管理 ○コスト削減のための疎植栽培等の指導が行われている。</p>
滋 賀	<p>・9月15日現在の作柄は、茎数がやや多くなったこと等から、穂数は「やや多い」となった。1穂当たりもみ数は、穂数が「やや多い」ことから相反作用により「平年並み」となった。このことから、全もみ数は「平年並み」となった。登熟は、出穂期以降8月前半までは高温・多照で経過したが、後半から9月上旬にかけて気温・日照時間ともに平年を下回ったことから、「平年並み」が見込まれる。被害は、8月下旬から9月上旬にかけての長雨による倒伏やいもち病の発生及び山間地で獣害がみられるものの、虫害等は少なく全体では「平年並み」が見込まれる。 これらのことから、水稻の作柄は「平年並み」が見込まれる。10a当たり予想収量は519kgで、前年産に比べて17kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別には、湖南は527kg(前年産に比べ17kg増)、湖北は502kg(同17kg増)が見込まれる。 (近畿農政局 10月2日付)</p>	<p>○良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・初期の過繁茂抑制 ・もみ数過多の抑制 ・登熟期の高温回避・栄養確保</p>
兵 庫	<p>・9月15日現在の作柄は、穂数及び1穂当たりもみ数は、田植後の気象経過等により、作柄表示地帯間でばらつきがあるものの、兵庫県全体では平年並みとなった。このため、全もみ数は平年並みとなった。登熟は、もみ数の少ない淡路では補償作用等によりやや良が見込まれるが、県北では、もみ数が多くなったことに加え、登熟期の日照不足等の影響により、不良が見込まれることから、兵庫県全体では平年並みが見込まれる。 以上のことから、10a当たり予想収量は497kg(前年産に比べ10kg増加)が見込まれる。作柄表示地帯別では、県南は496kg(同11kg増加)、県北は505kg(同9kg増加)、淡路は495kg(同3kg増加)が見込まれる。 (近畿農政局 10月2日付)</p>	<p>○良質米生産に向け、品種別に以下の指導が行われている。 ・適期移植 ・適期・適量施肥</p>
岡 山	<p>・9月15日現在の作柄は、出穂最盛期は、6月から7月中旬並びに8月中旬から9月上旬の低温・日照不足により、早生品種が多い中北部では5月の好天で初期生育が順調であったものの平年より1日遅い8月3日、中生・晩生品種が多い南部では平年より7日遅い9月5日となった。この結果、県全体では平年より5日遅い8月24日となった。 穂数は、中北部では5月の好天で茎数が多かったため、「多い」となった。一方、南部では6月から7月中旬の低温・日照不足により茎数がやや少なくなったため、「やや少ない」と見込まれる。 この結果、県全体では「平年並み」と見込まれる。 1穂当たりもみ数は、中北部では幼穂形成期である6月下旬から7月中旬が低温・日照不足となったことから「やや少ない」となりました。一方、南部では幼穂形成期である8月上旬が天候に恵まれたことから「平年並み」と見込まれる。この結果、県全体では「やや少ない」と見込まれる。 これらのことから、全もみ数は中北部では「平年並み」、南部ならびに県全体では「やや少ない」と見込まれる。登熟は、中北部では8月中旬以降の低温・日照不足の影響により「やや不良」が見込まれる。南部ならびに県全体では日照不足の影響がみられるものの、その後の天候が平年並みに推移することを前提に「平年並み」を見込んでいる。 この結果、10a当たり予想収量は中北部で503kg、南部で521kgと見込まれ、県全体の10a当たり予想収量は514kgと見込まれる。作況指数は、中北部、南部、県全体いずれも98と見込まれる。 (中国四国農政局 10月2日付)</p>	<p>○生育状況に応じた水管理 ○高温下での登熟回避のための適期移植 ○地域や品種に適合した肥料選定等の指導が行われている。</p>
広 島	<p>・9月15日現在の作柄は、出穂最盛期は、平年並みとなった。穂数は、茎数が平年並みで、有効茎歩合が高かったことから、平年に比べてやや多くなった。1穂当たりもみ数は、早生品種の幼穂形成期にあたる6月下旬から7月上旬が低温で日照時間が少なかったことから、平年に比べてやや少なくなった。全もみ数は、1穂当たりもみ数がやや少なかったことから、平年に比べてやや少なくなった。登熟は、8月上旬が高温・多照となったものの、8月中旬から9月上旬は曇雨天が続き、最高気温及び日照時間が平年を下回ったため、平年並みが見込まれる。この結果、10a当たり予想収量は510kgが見込まれる。 (中国四国農政局 10月2日付)</p>	<p>○肥培管理、水管理等基本管理技術の高位平準化により外観品質向上を目指している。 ○需要動向を踏まえた売れる米作りに対応し、実需者ニーズに対応する品種の作付けによる産地の育成を図っている。</p>

	品質概況等	備考
山口	<p>・9月15日現在の作柄は、1㎡当たり穂数は、早生種では、5月の気温が平年に比べ高めで経過し、日照時間も平年を上回ったため多くなった。中生・晩生種では、6月以降7月下旬まで日照時間が平年を下回ったためやや少なくなったが、全体では「やや多い」となった。1穂当たりもみ数は、早生種では6月以降7月下旬までの日照不足の間に幼穂形成期を迎えたため、もみ数が抑制されたことにより平年に比べ少なくなった。中生・晩生種は、1㎡当たり穂数が平年に比べやや少なくなったことから、補償作用により1穂当たりもみ数はやや多くなると見込んでおり、全体では「やや少ない」となった。この結果、1㎡当たり全もみ数は、「平年並み」となった。</p> <p>登熟は、梅雨明け以降8月上旬が高温多照で経過したことから、この時期に登熟期を迎えた早生種では平年並みと見込まれるものの、8月中旬から9月上旬までの低温・日照不足に加え、8月25日に山口県の西海上を北上した台風第15号により倒伏等が発生したことから、全体では「やや不良」が見込まれる。この結果、10a当たり予想収量は489kgが見込まれる。 (中国四国農政局 10月2日付)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 9月18日公表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品種特性に応じた栽植密度の確保 ○中干し等水管理の徹底 ○気象条件にあった施肥管理等の指導が行われている
愛媛	<p>・9月15日現在の作柄は、茎数が平年並みであったことから穂数も平年並みが確保された。1穂当たりもみ数は、6、7月が日照不足であったものの、本県の主力品種であるヒノヒカリやこまるの幼穂形成期に当たる8月上旬から中旬が多照で推移したことから平年並みが確保された。</p> <p>登熟については、8月下旬以降に出穂期を迎えたヒノヒカリ、こまる等は9月6日頃から平均気温が低下し、気温日較差も大きいことが好条件となった一方で、8月中旬から9月中旬の日照は平年に比べて少なく推移しており、好ましくない条件もあったことから平年並みが見込まれる。これらのことから、10a当たり予想収量は493kg(前年産に比べて3kg増加)が見込まれる。 (中国四国農政局 10月2日付)</p> <p>・普通期水稻の成熟期は10月、今年の出穂がやや遅く、10月25日までの平均気温は平年並みか低い見込みであることから、成熟期は平年に比べて遅いと予想される。 (愛媛県 9月29日付)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 9月18日公表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・疎植栽培 ・移植時期の後進化 ・適正な水管理
高知	<p><早期栽培の9月15日現在の作柄> 全もみ数は、穂数、1穂当たりもみ数とも平年並みであったことから、平年並みとなった。登熟は、日照不足や穂いもちの発生などによりやや不良となった。被害は、日照不足による登熟への影響やいもち病の発生などから、総じてやや多くなった。これらのことから、10a当たり収量は462kg、作況指数は「96」のやや不良となった。</p> <p>地帯別には、西部では、全もみ数がやや少なくなったことに加え、日照不足やいもち病の被害が多くなったことなどから、作況指数は「94」の不良となった。</p> <p><普通栽培の9月15日現在の作柄> 全もみ数は、穂数がやや少なくなったものの、幼穂形成期の天候に恵まれ1穂当たりもみ数が多くなったことから、多くなった。登熟は、全もみ数が多いことに加え、登熟期となる8月下旬以降が日照不足で経過したことなどから、不良が見込まれる。</p> <p>被害は、早期栽培と同様に日照不足による登熟への影響やいもち病の発生などから、総じてやや多いと見込まれる。これらの結果、10a当たり予想収量は419kg、作況指数は「97」のやや不良が見込まれる。 (中国四国農政局 10月2日付)</p> <p>・「コシヒカリ」は、玄米の外観は、地域により差はあるものの、全体的に光沢は良好であるが、粒ぞろいはやや不揃い、粒形はやや細く、やや小ぶりである。白米熟粒の混入は全体的に少ない。出回り初期のものは、青未熟粒混入はやや多かったが、8月下旬のものは、青未熟粒混入は少なく、その他未熟粒の混入はやや多い。その他未熟粒の混入の程度は地域による差がある。胴割粒及び被害粒の混入は比較的少ないが地域により差がある。死米の混入はやや多く、これも地域による差がある。着色粒は全体的に散見される程度である。 (精米工 8月31日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正な肥培管理 ・適期防除 ・収穫前の水管理の徹底(早期栽培)、移植時期の後進化(普通栽培)
福岡	<p>・9月15日現在の作柄は、穂数が少なく、1穂当たりもみ数がやや多くなったことから、全もみ数はやや少なくなった。登熟は、出穂期以降の天候が寡照であるものの適度な気温で推移していることから平年並みが見込まれる。</p> <p>この結果、10a当たり予想収量は482kg(作柄の悪かった前年産に比べ4kg増加)が見込まれる。平年表示地帯別には、福岡473kg(同7kg増加)、北東部477kg(同10kg増加)、筑後490kg(前年産と同じ)が見込まれる。 (九州農政局 10月2日付)</p> <p><普通期水稻> 「夢つくし」の収穫は9月5日頃から開始している。収穫最盛期は平年より2日程度遅い9月12～20日頃の見込み。日照不足の影響により、収量は平年並～やや劣ると予想している。</p> <p>「元気つくし」の収穫は9月26～10月10日ごろ、「ヒノヒカリ」の収穫は10月10～20日頃で、共に8月中旬の低温、日照不足の影響により平年より2～4日遅れている。 (福岡県農林業総合試験場 9月14日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・適期移植 ・中干し・間断灌水・落水時期の適正化 ・土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥
熊本	<p><県北地帯の9月15日現在の作柄> 全もみ数は、穂数が「少ない」となり、その補償作用で1穂当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや少ない」となった。登熟は、低温・日照不足による生育の遅れや台風第15号のみみずれ・葉ずれ等の影響があるものの、出穂後は概ね天候に恵まれていることから「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る517kg(作柄の悪かった前年産に比べ7kg増加)が見込まれる。</p> <p><阿蘇地帯の9月15日現在の作柄> 全もみ数は、穂数が「平年並み」となり、1穂当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや多い」となった。登熟は、5月早植えのコシヒカリについては出穂以降日照不足に推移したこと、また、その他の品種については、低温・日照不足による生育の遅れや台風第15号によるみみずれ・葉ずれ等の影響があることから「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る500kg(同6kg増加)が見込まれる。</p> <p><県南地帯の9月15日現在の作柄> 全もみ数は、穂数が「少ない」となり、その補償作用で1穂当たりもみ数が「多い」となったことから「平年並み」となった。登熟は、台風第15号の通過に伴い、早植えのキヌヒカリで倒伏が発生したこと及び出穂最盛期を迎えていたヒノヒカリ等で、全域においてもみずれが発生し、不稔粒の増加が予想されることから「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る489kg(同11kg減少)が見込まれる。</p> <p><天草地帯の9月15日現在の作柄> 全もみ数は、穂数は「少ない」となり、その補償作用で1穂当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや少ない」となった。登熟は、早期水稻が平年並みとなったこと、普通期は台風第15号のみみずれ・葉ずれ等の影響があるものの、出穂後は概ね天候に恵まれていることから全体では「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る420kg(同9kg減少)が見込まれる。</p> <p>・いもち病の発生が平年より多く、特に中山間地域を中心に穂いもち病の発生が平年より多く見受けられる。内頸褐変病、紋枯病は平年並みの発生。スクミリンゴガイの発生が平年に比べ多い。カメムシ及びトビイロウンカについては平年並みの発生となっており大きな被害は出ていない。 (九州農政局 10月2日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・適期移植 ・高温時の間断灌水 ・カメムシの防除 ・土壌改良資材の投入

	品質概況等	備考
宮 崎	<p><早期栽培の9月15日現在の作柄> 全もみ数は、穂数が少なく、1穂当たりもみ数もやや少なくなったことから、平年に比べて少なくなった。登熟は、6月から7月の日照不足や低温、多雨等の影響から不良となった。被害は、分けつ期から登熟期にかけての日照不足や低温などの気象被害、また穂いもち病等の発生がみられ、総じて多い発生となった。以上のことから、10a当たり収量は411kg（前年産に比べ77kgの減少）となった。</p> <p><普通栽培の9月15日現在の作柄> 出穂最盛期は、低温や日照不足の影響で幼穂形成が遅れたことから、平年に比べて3日遅い8月28日となった。穂数は、6月から7月が低温や日照不足の影響から分けつが抑制され、平年に比べて少なくなった。 1穂当たりもみ数は、幼穂形成期が天候に恵まれ、穂数が少なかったことによる補償作用等から、平年に比べて多くなった。全もみ数は、穂数は少なくなったが、1穂当たりもみ数が多くなったことから、平年並みとなった。登熟は、1穂当たりもみ数が多く、出穂期の多雨や日照不足等の影響から、平年に比べてやや不良が見込まれる。 被害は、低温や日照不足等の影響による分けつ抑制や登熟への影響など、出穂が遅れた地帯では特に低温による登熟への影響となる気象被害が懸念される。また、いもち病の発生面積が例年よりやや多い状況となっている。 以上のことから、10a当たり予想収量は490kg（前年産に比べ5kg増加）が見込まれる。 （九州農政局 10月2日付）</p> <p>・「コシヒカリ」は、玄米の外観は、地域により差はあるものの、光沢、粒ぞろい、粒形は平年並みである。白未熟粒の混入は全体的に少ない。青未熟粒及びその他未熟粒の混入は、地域による差があり、やや多い地域もある。胴割粒、被害粒、着色粒の混入は、全体的に散見される程度で比較的小さい。死米の混入はやや多く、これも地域による差がある。 （精米工 8月31日付）</p>	<p>○適正な栽種密度の確保 ○移植時期の後進化 ○土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。</p>
鹿 児 島	<p><早期栽培の9月15日現在の作柄> 全もみ数は、日照不足と低温などにより穂数が平年に比べて少なく、1穂当たりもみ数も平年並みとなったことから少なくなった。登熟は、出穂前から刈取最盛期直前まで日照不足で経過した影響から粒の充実が悪く、不良となった。 被害は、生育期が日照不足で経過したことから、気象被害の影響が大きく、病虫害の発生もやや多かったことから、全体としては平年に比べて多くなった。 この結果、10a当たり予想収量は396kg（前年との差△59kg）が見込まれ、農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の10a当たり予想収量は383kg（作況指数88）となった。</p> <p><普通栽培の9月15日現在の作柄> 穂数は、田植え後から7月下旬までが日照不足と低温気味で経過した影響で、生育はやや遅れ気味となり、分けつが抑制されたため平年に比べて少なくなった。1穂当たりもみ数は、8月上旬から中旬の幼穂形成期頃に高温多照の好天が続いたことと、穂数が少ないことによる補償作用も働いたことから平年に比べて多くなった。 全もみ数は、1穂当たりもみ数が多くなったものの、穂数が少ないことから平年に比べてやや少なくなった。登熟は、出穂期頃に襲来した台風第15号の強風やいもち病等の影響が懸念されることから、やや不良が見込まれる。 被害は、日照不足による分けつへの影響が大きく、いもち病等の病虫害も平年並みと見込まれることから、全般的には平年に比べてやや多くなっている。 この結果、10a当たり予想収量は472kg（前年との差9kg）と予想され、農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の10a当たり予想収量は448kg（作況指数93）が見込まれる。 （九州農政局 10月2日付）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予報。（農林水産省 9月18日公表）</p>	<p>○高品質米の生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な栽種密度の確保、適期移植 ・適正な施肥、水管理

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

注2：（精米工）とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル（玄米）を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。

参考資料

平成27年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(農林水産省、農林水産省農政局)、
平成26年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(農林水産省)、
平成27年産米の農産物検査結果(速報値/平成27年8月31日現在)(農林水産省)、
平成26年産米の農産物検査結果(速報値/平成26年8月31日現在)(農林水産省)、
平成27年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、
平成26年産米の都道府県別の生産数量目標(農林水産省)、
都道府県別の平成27年産水稲の生産事情(農林水産省)、
「平成27年度病害虫発生予報第7号」の発表について(農林水産省)、
玄米品質概況(平成27年産)(一般社団法人日本精米工業会)

農作物の生育状況 9月15日現在(北海道 9月18日)、農作物生育状況 9月15日現在(北海道空知総合振興局 9月18日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道石狩振興局 9月18日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道後志総合振興局 9月18日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道胆振総合振興局 9月18日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道日高振興局 9月18日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道渡島総合振興局 9月18日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道檜山振興局 9月18日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道上川総合振興局 9月18日)、農作物生育状況調査の概要 9月15日現在(北海道留萌振興局 9月18日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 9月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 9月18日)、
9月30日現在稲刈進捗状況(青森県 10月1日)、作況調査報告(登熟状況)(青森県産業技術センター農林総合研究所 9月15日)、
平成27年農作物生育情報水稲の刈取り状況(9.30現在概況速報)(岩手県中央農業改良普及センター県域普及グループ 10月1日)、
平成27年産水稲の刈取状況について(10月1日現在)(宮城県農林水産部 10月2日)、平成27年台風第18号等による大雨に係る被害(宮城県 9月23日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 10月2日)、
米づくり技術情報 NO.8(オールやまがた米づくり日本一運動本部 9月11日)、つや姫通信第7号(村山総合支庁 9月25日)、
つや姫情報第6号(最上総合支庁 9月25日)、おきたま「つや姫だより」・おきたま米づくり情報No.9(山形の米日本一推進運動置賜地域本部 9月16日)、
つや姫だより第9号(村山総合支庁北村山農業技術普及課 9月11日)、つや姫だより第10号(庄内総合支庁 9月10日)、
主要な農作物の生育情報 平成27年度第6号(福島県 9月4日)、
台風18号等による農林水産業の被害状況について(第4報)(茨城県 9月18日)、
平成27年9月9日の台風18号による農作物及び農業施設の被害状況について(概況)(栃木県 9月18日)、
平成27年度水稲の生育概況vol.4(埼玉県農業技術研究センター 9月10日)、
台風18号の影響による農林水産業への被害について(第4報)(9月16日午前9時現在)(千葉県 9月16日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策(第11号)(新潟県農林水産部 9月18日)、阿賀野川の洪水に伴う農作物の管理対策(新潟農業普及指導センター 9月11日)、
緊急稲作情報(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 9月15日)、稲作情報No.13(南魚沼農業普及指導センター 9月10日)、
稲作情報No.21(福井県水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 9月15日)、
平成27年度作物技術普及情報第15号(長野県松本農業改良普及センター)、病害虫発生予報第6号(長野県病害虫防除所 9月15日)、
気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県農林水産研究所 9月29日)、
福岡県的主要な農産物の生産状況(福岡県農林業総合試験場 9月14日)、